御浜町 特産品 自慢

年中みかんのとれる町

御浜町は、温暖な気候に恵まれ、古くから野生のみかんが随所にありました。
大正時代に本格的なみかん生産が盛んになりました。
現在では、冬でも温暖な気候が四季を通じて多種類のみかんを育てます。
個性的で、いろんな味わいを楽しめるため『年中みかんのとれる町』と言われるようになりました。

秋のみかん

温州みかん
収穫期間：9月下旬～12月末

春のみかん

デコポン（不知火）
収穫期間：2月～4月

カラ・マンダリン
収穫期間：4月～5月

セミノール、春光柑、清見、せとか、はるみ、甘夏みかんなど

冬のみかん

早　香（はやか）
収穫期間：12月下旬～1月末

ポンカン
収穫期間：12月下旬～2月中旬

平成みかん、ネーブル、伊予柑（いよかん）など

夏のみかん

サマーフレッシュ
収穫期間：6月上旬～7月末
温室（ハウス）みかん

きれいな海の恵み

七里御浜海岸の沖合に「大敷（おおしき）」と呼ばれる大きな魚をとる定置網を仕掛け、熊野灘を回遊して来る豊富な魚を狙います。
魚にも旬があり、季節によって獲れるものが変わります。

TVの全国放送や雑誌などでも取り上げられる味わい豊かな豚肉。山深い谷間から湧き出る岩清水で育っています。

寒暖の差が大きな山間部では、棚田で味わい豊かなお米が作られています。

みかんに次ぐ栽培がおこなわれている梅。品質の良い南高梅などが育てられています。

みえ御浜町商工会
〒519-5203 三重県南牟婁郡御浜町下市木 919-45
電話：05979-2-3220
FAX：05979-2-3670
mail: kyjbjwbe@ztv.ne.jp
http://www.mie-shokokai.or.jp/mihama/
御浜町商工会 検索

御浜町 世界遺産 熊野古道

世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』、その参詣道のひとつ「熊野古道」は、熊野三山（本宮大社・速玉大社・那智大社）へ参拝するための巡礼道でした。
御浜町内には、山中を進む本宮道と砂利浜が続く七里御浜海岸沿いに進む浜街道が残されています。その歴史ある道が示すように、この地域には美しい自然が造り上げた空間と史跡などが多く残され、ゆっくりと時間をとって回るほど楽しみが増える町です。

世界遺産のある町

浜街道（はまかいどう）

伊勢から峠越えが続く熊野古道の中にあって唯一、美しい海岸線がなだらかに続く道です。
今でこそ道が整備されていますが、当時は橋のなかった河口などで命を落とす巡礼者もいました。
目の前に広がる青い海と、歩くと気持ちのよい砂利浜は四季を通じて釣り客も多く訪れます。

横垣峠（よこがきとうげ）

花の窟神社で浜街道と分かれて山間を行くのが本宮道です。
最初の峠が御浜町神木（こうのぎ）から阪本へと抜ける横垣峠です。
この地方特有の神木流紋岩の美しい石畳が残されています。平成２３年の台風１２号によって大きな損害を受けました。

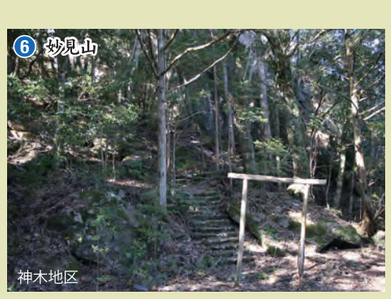
風伝峠（ふうでんとうげ）

熊野市との町境にあり、海辺と山村を結ぶ要所でした。風伝の名前の通り風のよく通る峠を意味しており、初秋から春先にかけて雄大な朝霧が流れる景観を楽しむ事ができます。
峠道は、旧道と重なるように続きますが、石畳が残された峠道です。

自然・歴史を楽しむ。

秋から冬にかけて、雨上がり後のお天気によく見られます。

引作の大楠の樹齢は推定1500年、幹まわり約15.7m、樹高は31.4m。三重県随一の巨木です。



標高630mで、東紀州を代表する10名山にも数えられています。山頂にある巨岩が御神体。

もと尾呂志城の鎮守地で、八幡様などを祀っています。

自然災害から守るため水神塔・三重塔が新旧五基建っています。うち一基は昭和59年に再建されたものです。

岩洞院元屋敷の上にある子安観音は、大きな岩に抱かれるかのようにひっそりと佇んでいます。

昔から現在の場所に鎮座している原地神社。棟札のもっとも古いものには、宝暦七年（1757）正月とあります。

田んぼ一角をフジバカマの花を植えて10月には旅をする蝶「アサギマダラ」を迎えます。

樹齢およそ800年といわれるその樹は、高さ20メートル、樹周約5.8メートルで、イヌマキの巨木と呼ばれています。

万延年間（1860）市木村に「狐附き」という怪病が流行り、村人の主立った者が相談し、稲荷大明神を祀りました。

一般的な桁橋ではなく、本体基本部分は石積みで、アーチ部分上面がレンガ積み造りの重厚な５連アーチ橋。

御浜町に残る 伝説・言伝え

今も語り継がれる伝承や伝説が御浜町には数多くあります。
その一部をこちらで紹介しています。
史跡には、今も息づくその当時の人々の想いが生き続けています。

稚子塚伝説（ちごづかでんせつ）【阿田和地区】⑮

阿田和貫ノ木に稚子塚があります。
正徳年間（1711年から1716年）に七里御浜海岸の中ほどにある萩内という村にお姫様が流れ着き、庄屋翁了に救われ茶屋を開き、一生独身で過ごしました。
臨終の際、お世話になった翁了にお礼を述べ、「私を七尾七里が一目で見える高い山の上に葬って欲しい。そして、何時までも村人の平和を祈りたい」と遺言をしました。
お姫様を近くの飛波山（ひわやま）に葬り、稚子塚と呼び、その名が「乙姫」であったので、大正10年（1921年）祠を建て、乙姫大明神として祀りました。
お参りをすれば、美人が生まれ、無病長寿が得られると言われています。

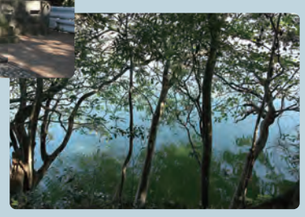
弥九郎と紀州犬【阪本地区】

江戸時代、紀の国は阪本村に弥九郎という鉄ぽう撃ちの名人がいました。
ある日の夜、弥九郎が山道を歩いているとのどに骨がひっかかり苦しんでいる一匹のオオカミがうずくまっていました。
弥九郎は骨をぬいてオオカミを助けると「もしよければ、おまえの子供を一匹おれにくれんか。」といって、オオカミを放してあげました。それからしばらくして弥九郎の家の前に一匹の子犬がおいてありました。弥九郎は、これはあのオオカミの子にちがいないと思い「マン」と言う名をつけて大事に育てました。
ある年、新宮のお殿様が狩りをした時、1頭の手追いのイノシシが殿様めがけて突進して来ました。
それを見たマンはイノシシにおそいかかりみごとにたおしてしまいました。
こうしてマンは、このあたりでは知らない人がないほど有名になりました。
この弥九郎の犬が、後の紀州犬の先祖だということで、紀州犬はオオカミの血をひいているといわれています。
マンの主、弥九郎は実在した人で阪本の岩洞院というお寺にお墓も残されています。

池大明神【下市木地区】⑰

下市木三軒屋には壷の池大明神が祀られています。
下北山村の池の峰神社の近くに大蛇が住み、住民や旅人を悩ませていました。神様は懲らしめてやろうと、下駄で踏みつけ三つに分けました。
頭（奈良猿沢の池）と胴（池の峰明神池）と尾（下市木壷の池）です。
その尾は壷の池の主となり、大うなぎとなりました。そのうなぎを取ると病になり、やがて亡くなり、村人はその後、うなぎを取らず、汚物を流さず、池大明神として祀りました。

社の右側は、すぐに池になっています。



雲揚艦遭難跡【阿田和地区】⑱

阿田和の小松原で、明治9年（1876年）10月31日午後12時、雲揚艦が遭難しました。
長州萩で乱が起こり、横須賀を軍艦浅間とともに出港しましたが、遠州御前崎で暴風雨となり蒸気機関が止まりました。
そこで瀧野艦長は船だけで串本まで直行と決心しました。真夜中「あかりが見えます」とのことで方向を変えようとしましたが、横波をかぶり艦は動かなくなりました。
艦長は全員上陸を命じましたが、泳げないもの11名をはじめ23名が溺死し、52名は勇敢な阿田和の若者の必死の活躍によって救助されました。殉難者は光明寺に葬られております。

水壷地蔵【神木地区】⑲

水壷地蔵は弘法大師がここを通り、杖をついて清水を沸き出させ、旅人の便をはかったといわれる場所にあります。
水壷地蔵は新旧2体あり、ともに丸彫り型座像です。その前に石灯籠があり、「神野木村安全」「往来安全」「嘉永三戌十二月」「願主 大坂佐藤家宗七 世話人 庄右衛門」の銘文が刻まれております。
嘉永3年は桜田門外の変の10年前、1850年です。大坂の大工宗七は職を求めて熊野に来たが、仕事が見つからず、水壷地蔵で疲れはてて寝込んでしまいました。
その夢枕にお地蔵様が現れ「この下の集落へ行くと仕事がある」と告げられました。早速神木集落へ下りてみると仕事があり、その後大繁盛したので、そのお礼に地蔵と石灯籠を献納したと言われております。

まるい海と青い空 ほっとひといき 御浜町

みはまちょう

御浜町は海の見所、山の見所、
一日じゃ回りきれない見所がいっぱい!
各地区ごとにじっくりと歩いてみてください!
隠れたスポットがきっと見つかります!

⑥妙見山
749m

不動の滝 ㉔

高チラ山
625m

善昌寺

⑩原地神社

神木

神木のイヌマキ ⑫

熊野古道 本宮道

なかよしステーション神木
(農産物直売所)

水壺地蔵 ⑲

② 横垣峠

弥九郎の墓

子安観音 ⑨ ⑯

岩洞院 ㊶

亀島の石灯籠 ㉕

折山神社 ㉒ ⑪

熊野市

熊野市紀和町

川瀬

風伝峠の朝霧
(風伝おろし) ④

③ 風伝峠

川瀬城址石碑

㉑ 熊野古道地域センター

さぎりの里 ⑳

阪本の棚田

阪本

紀州犬のふるさと

⑦ 上野の大杉

宝積院 ㉚
宝篋印塔 ㉛

長徳寺

尾呂志支所

上野

栗須

片川

牛鬼碑 ㊷

尾呂志川

西原

桃太郎岩 ㉜

トロトロ坂 ㉝

風吹峠 ㉞

中立

瑞泉寺

㉙寺谷総合公園

浅間山
209m

大日如来・庚申様

みかん農園と山々

海と町並み ㊹

御浜町商工会

稚子塚 ⑮

御浜町役場

㊸

阿田和

みかん畑と海

熊野古道 浜街道

ふれあい桜公園

阿田和駅

道の駅 ㊵
パーク七里御浜

紀南病院

雲揚艦砲 ⑱
光明寺

中央公民館

ふれあいビーチ ㊳

阿田和神社 ㉟

柿原

宝積寺

引作の大楠 ⑤

引作

㉙寺谷総合公園

市木稲荷神社 ⑬

市木一里塚 ㊲

⑭緑橋

⑧水神塔

市木のイブキ ㊱

紀伊市木駅

下市木

七里御浜

熊野灘

志原

志原川

三重県農業研究所
紀南果樹研究室

蔵国寺

一万堂 ㉖

尾鷲・名古屋

至熊野

㉗巡礼の碑

オレンジロード

JA三重南紀
統一柑橘選果場

林松寺

池大明神 ⑰

養の池

神志山駅

黒岩の溜池

椋龍観音 ㉘

阿弥陀寺

山地工業団地

㊴六部の墓

至新宮・和歌山

七里御浜

御浜町アクセス MAP

マイカーで

- 大阪から西名阪自動車道 → 関JCT → 伊勢自動車道 → 勢和多気JCT → 紀勢自動車道 → 紀勢大内山IC → 国道42号にて御浜町（4時間00分）
- 名古屋駅から東名阪自動車道 → 伊勢自動車道 → 紀勢自動車道（紀勢大内山IC）、R42号にて御浜町（3時間50分）

※平成25年開通予定　紀勢大内山IC → 尾鷲北IC → 国道42号 → 尾鷲南IC → 大泊IC（熊野市大泊町）

JRで

- 名古屋より関西本線経由紀勢本線「特急ワイドビュー南紀号」にて2時間45分で熊野市駅、普通列車にて16分で御浜町阿田和駅に至る。
- 新大阪駅よりきのくに線「特急スーパーくろしお号」にて3時間40分で新宮駅、普通列車にて16分で御浜町阿田和駅に至る。

私鉄・バスで

- 大阪、上本町より近鉄大阪線にて1時間30分で松阪、名古屋より近鉄名古屋線にて1時間10分で松阪、三重交通南紀特急バスにて3時間で熊野市、路線バス約20分で御浜町に至る。
- 東京より三重交通、西武バスの夜行バスにて約10時間で御浜町に至る。

MIE　御浜町商工会
〒519-5203
三重県南牟婁郡御浜町下市木919-45
電話：05979-2-3220
FAX：05979-2-3670
mail: kyjbjwbe@ztv.ne.jp
※AM8:30～PM5:15　休日：土日祝祭日

駐車場 / トイレ / バリアフリー / 飲食店 / 喫茶店 / ガソリンスタンド / 旅館・ホテル / 直売店 / まちかど博物館 / 釣りポイント / 学校 / ビューポイント / 自動車修理